

日本文化人類学会 第 40 回研究大会

2006 年 6 月 3 日 (土) ~ 4 日 (日)

於 東京大学 (駒場)

日本文化人類学会第 40 回研究大会準備委員会

〒 153-8902 東京都目黒区駒場 3-8-1

東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻 (文化人類学コース)

email: 40nbj@jasca.org

ホームページ: <http://www.jasca.org/meeting/40th/index.html>

日本文化人類学会 第40回研究大会プログラム

2006年6月3日(土)

- 08:30 参加受付開始
- 09:00-11:50 研究発表
- 13:00-17:05 研究発表
- 17:30 懇親会受付開始
- 18:00-20:00 懇親会、澁澤賞授与式

2006年6月4日(日)

- 08:30 参加受付開始
- 09:00-11:50 研究発表
- 12:50-15:30 総会
学会賞・学会奨励賞授与式
学会賞受賞者 川田順造氏 特別講演
- 15:30-17:55 研究発表

会場

- [研究大会] 東京大学駒場キャンパス (東京都目黒区駒場 3-8-1)
- [懇親会] 駒場エミナーズ (東京都目黒区大橋 2-19-5)

大会参加者の皆様へ

1 受付

受付は、一日目・二日目ともに、12号館1階ロビーにて、8:30から行います。受付で登録のうえ、発表抄録集と名札をお受け取りください。名札は、最後にお帰りになるとき、受付に設置の返却箱にご返却ください。

2 発表会場

発表会場は東京大学（駒場）12号館と13号館です。別頁の研究大会会場の案内図を御参照のうえ、お間違いのないようお願いします。

3 昼食

大変恐縮ながら、準備委員会では昼食を用意しておりません。2日目（日曜）は特に、駒場東大前付近で昼食をとれる所が限られてしまいますので、ご注意のほどお願いいたします（往復の時間はかかりますが、井の頭線を使って数分で近隣の下北沢ないし渋谷に出ることは可能です）。当日、食事処についての案内をお配りします。

4 喫煙

東京大学（駒場）は所定の場所以外、全面禁煙です。喫煙者の皆様におかれましては、ご協力くださいますようお願いいたします。喫煙所については、案内図を御覧下さい。

5 懇親会

一日目の研究発表の終了後、駒場エミナース（〒153-0044 東京都目黒区大橋2-19-5, 03-3485-1411）にて、懇親会を開催いたします。大会会場より徒歩にて移動します。途中、係の者が道を案内いたします。別頁の案内図も御参照ください。

その他、当日に御不明な点は、実行委員会の者・会場係にお尋ねください。

個人発表をなさる方へ

1 発表者受付

個人発表をなさる方は、発表時間の30分前までに、12号館1階ロビーの発表者受付で、発表登録の確認を行ってください。指定された発表会場には、発表開始予定時刻の15分前までにお入りになり、前方の席で待機してください。なお、事前の登録時とは異なる発表機材を御使用になる場合、発表登録の確認時に申告して下さるようお願い申し上げます。

2 発表資料

発表の際に資料を配付される方は、予め各自で必要部数を用意してください（コピーの要望は、一切対応いたしません）。残部は、発表終了後に、各自回収してください。

3 発表時間

個人発表の制限時間は、質疑応答を含んで20分です（その後の5分は、移動や機材設置の為の時間です）。座長の指示に従い、時間内に発表を終えるよう御協力ください。時間経過の合図は次の通りです。

15分経過	ベル1回
18分経過	ベル2回
20分経過	ベル3回（発表終了）

4 発表機材

パワーポイントなどPCを使用の場合：既にお伝えしてありますように、PCは発表者の持ち込みです。各発表の間に設定された5分の間に、持参されたPCを、会場に設置してあるプロジェクターに接続してください（これが失敗した場合にのみ、準備委員会の予備のPC [Windows機] を用います）。プロジェクター、ポインター、接続コード（D sub 15ピン形式）は準備委員会で用意いたします。なお、接続のテストの時間を、午前・午後のセッションそれぞれ開始30分前から設けております。また、接続のテストの場所も設けてあります（発表機材調整室）。

OHCやビデオを使用の場合：備え付けのOHC・AV機器をそのままお使いください。なお、テストの時間を、午前・午後のセッションそれぞれ開始30分前から設けております。

スライドを使用の場合：それぞれの会場係が用意するスライドホルダーに、御自身で挿入し、30分前までに会場係の者にお預けください。発表終了後、御自身でスライドをホルダーから回収してください。

分科会発表をなさる方へ

1 発表者受付

分科会代表者は、発表時間の30分前までに、12号館1階ロビーの発表者受付で、発表登録の確認を行ってください。分科会発表者の方については、代表者の方がとりまとめを行ってください。なお、事前の登録時とは異なる発表機材を御使用になる場合、発表登録の確認時に申告してくださるようお願い申し上げます。

2 発表資料

発表の際に資料を配付される方は、予め各自で必要部数を用意してください（コピーの要望は、一切対応いたしません）。残部は、発表終了後に、各自回収してください。

3 発表時間

各分科会の発表時間は、プログラムに記載されている通りです。時間内での発表、コメント、質疑応答などの時間配分や司会については、代表者にお任せいたします。代表者は、割り当てられた時間内に分科会を終了するようお願いいたします。時間を超過した場合、大会準備委員会の権限でその分科会を終了させていただきます。

4 発表機材

パワーポイントなどPCを使用の場合：既にお伝えしてありますように、PCは発表者の持ち込みです。分科会開始直前に、持参されたPCを、会場に設置してあるプロジェクターに接続してください（これが失敗した場合にのみ、準備委員会の予備のPC [Windows機] を用います）。分科会中でのPCの使用の仕方については、代表者にお任せいたします。プロジェクター、ポインター、接続コード（D sub 15ピン形式）は準備委員会で用意いたします。なお、接続のテストの時間を、午前・午後のセッションそれぞれ開始30分前から設けております。また、接続のテストの場所も設けてあります（発表機材調整室）。

OHCやビデオを使用の場合：備え付けのOHC・AV機器をそのままお使いください。なお、テストの時間を、午前・午後のセッションそれぞれ開始30分前から設けております。

スライドを使用の場合：それぞれの会場係が用意するスライドホルダーに、御自身で挿入し、30分前までに会場係の者にお預けください。発表終了後、御自身でスライドをホルダーから回収してください。

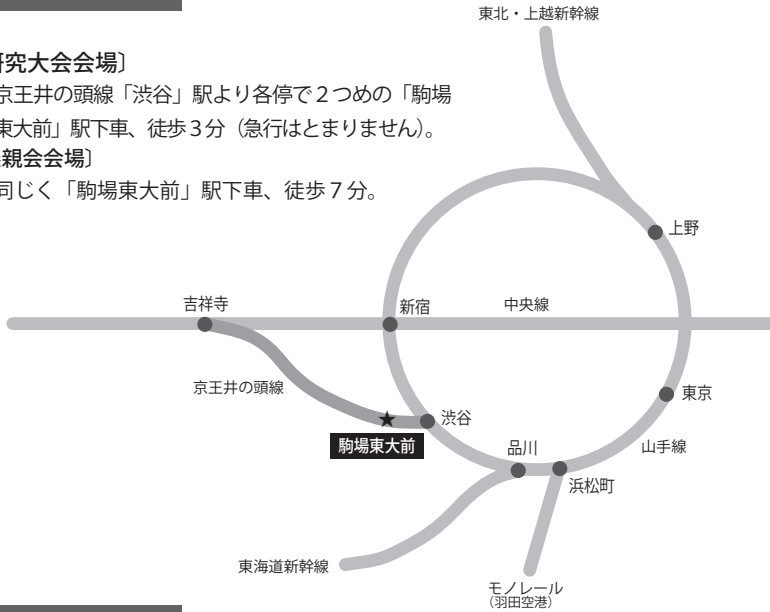
アクセス

〔研究大会会場〕

京王井の頭線「渋谷」駅より各停で2つめの「駒場東大前」駅下車、徒歩3分（急行はとまりません）。

〔懇親会会場〕

同じく「駒場東大前」駅下車、徒歩7分。



〔主要駅からの所要時間〕

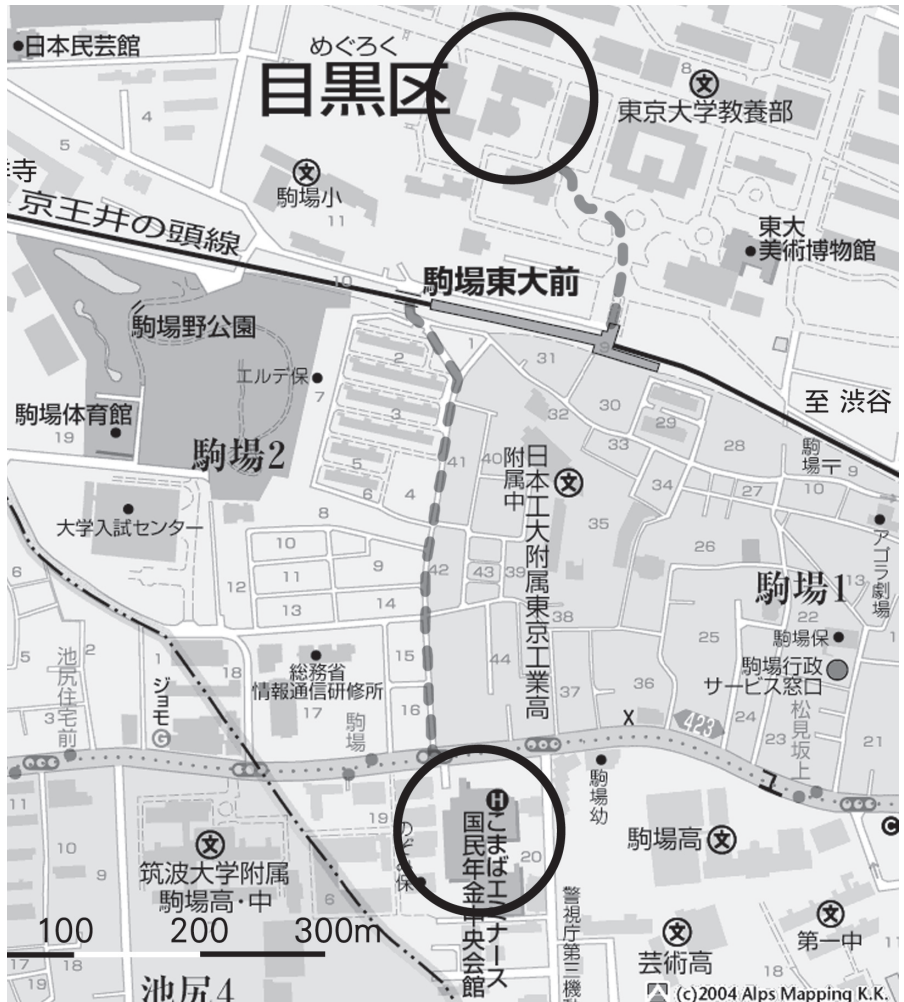
- ▽東京駅より45分
- ▽品川駅より30分
- ▽新宿駅より20分
- ▽渋谷駅より7分
- ▽京急羽田空港駅より55分

※京王井の頭線「駒場東大前」駅まで、乗換時間を含む目安。

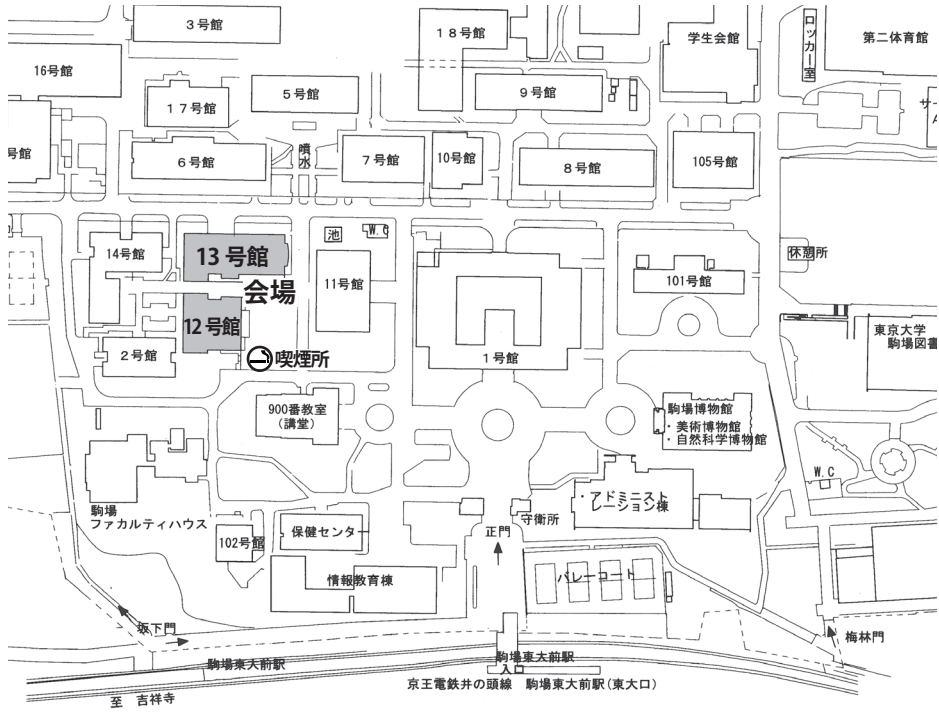
会場の駒場キャンパスは、都心にある本郷キャンパスとは異なります。お間違えのないようご注意ください。

周辺地図

- 上の円
：研究大会会場
- 下の円
：懇親会会場

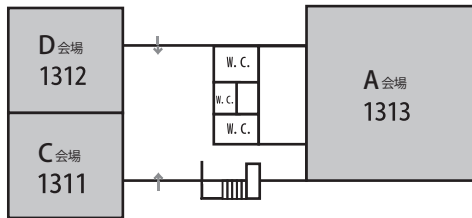


構内地図

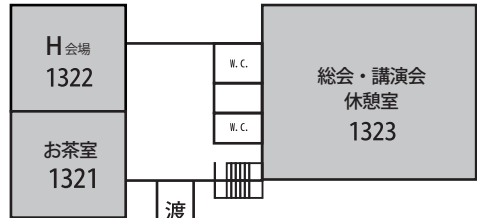


会場案内図

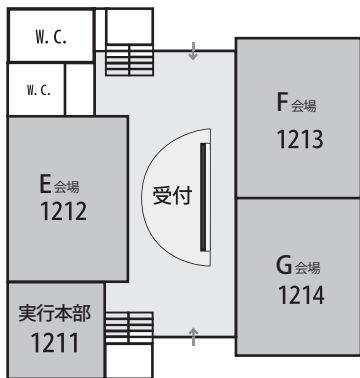
1F



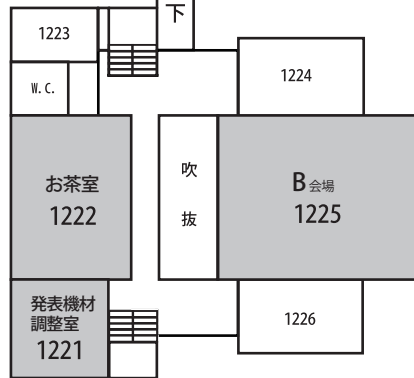
2F



12号館



12号館



お詫びと訂正

このたび、大久保豊氏、柳宗伸氏のご発表について、また田川泉氏の個人発表に関しまして、準備委員会のシステムの不手際により、サーキュラーでのご案内から洩れてしまったこと、また、適切な日時を設定できなかったことを深くお詫び申し上げます。

第40回研究大会準備委員会委員長 木村秀雄

正誤表

大久保豊氏	6月3日(土)	C-17	16:45-17:05 (追加)	
田川泉氏	6月4日(日)	G-28	16:45-17:05	→ 6月3日(土) E-17 16:45-17:05
柳宗伸氏	6月4日(日)	G-28	16:45-17:05 (追加)	

タイムテーブル

第1日目 6月3日(土)

		A 会場 (1313 号室) 定員 140 名	B 会場 (1225 号室) 108 名	C 会場 (1311 号室) 77 名	D 会場 (1312 号室) 76 名
8:30		受付開始			
9:00-9:20	[分科会]	B-1 田沼幸子	C-1 陶冶	D-1 板垣明美	
9:25-9:45	A-1 川田牧人	B-2 亀井伸孝	C-2 熊谷瑞恵	D-2 青木啓将	
9:50-10:10	A-2 白川千尋	B-3 青木恵理子	C-3 丸山孝一	D-3 齋藤典子	
10:15-10:35	A-3 大橋亜由美	[分科会]	C-4 陳暢	D-4 鷺見淳	
10:40-11:00	A-4 津村文彦	B-4 木村周平	C-5 兼重努	D-5 八巻恵子	
11:05-11:25	A-5 飯田淳子	B-5 碓陽子	C-6 宗ティンティン	D-6 中畑充弘	
11:30-11:50	A-6 東賢太郎	B-6 寺戸宏嗣	C-7 田村和彦	D-7 落合一泰	
	A-7 行木敬	B-7 モハーチゲルゲイ			
昼食					
13:00-13:20	[分科会]	[分科会]	C-8 海野るみ	D-8 鷹木恵子	
13:25-13:45	A-8 大越公平	B-8 久保正敏	C-9 盛恵子	D-9 井家晴子	
13:50-14:10	A-9 李仁子	B-9 田口理恵	C-10 松浦直毅	D-10 米山知子	
14:15-14:35	A-10 小谷幸子	B-10 木田歩	C-11 松本尚之	D-11 瀬戸邦弘	
14:40-15:00	A-11 中牧弘允	B-11 清水郁郎	C-12 梅津綾子	D-12 宮澤栄司	
15:05-15:25	[分科会]	B-12 小島摩文	C-13 古川優貴	D-13 大川真由子	
15:30-15:50	A-12 浮ヶ谷幸代	[分科会]	C-14 石田慎一郎	D-14 新井一寛	
15:55-16:15	A-13 磯田和秀	B-13 猪瀬浩平	C-15 浜田明範	D-15 青柳孝洋	
16:20-16:40	A-14 植村清加	B-14 市野澤潤平	C-16 湖中真哉	D-16 小杉麻李亜	
16:45-17:05	A-15 海野るみ	B-15 中川理	C-17 大久保豊	D-17 菊田悠	
	A-16 小田亮	B-16 真島一郎			
		B-17 田辺繁治			

第2日目 6月4日(日)

8:30		受付開始			
9:00-9:20	[分科会]	B-18 中村平	C-18 福井栄二郎	D-18 南出和余	
9:25-9:45	A-18 山田陽一	B-19 原英子	C-19 中村純子	D-19 古賀万由里	
9:50-10:10	A-19 太田好信	B-20 上水流久彦	C-20 丹羽典生	D-20 小松原秀信	
10:15-10:35	A-20 小尾章子	[分科会]	C-21 藤澤友子	D-21 岩谷彩子	
10:40-11:00	A-21 慶田勝彦	B-21 江口信清	C-22 飯高伸五	D-22 山崎浩平	
11:05-11:25	A-22 鈴木慎一郎	B-22 四本幸夫	C-23 比嘉夏子	D-23 國弘暁子	
11:30-11:50	A-23 池田光穂	B-23 村瀬智	C-24 森本利恵	D-24 佐藤斉華	
	A-24 松岡秀明	B-24 山本勇次			
昼食					
15:30-15:50	[分科会]	[分科会]	C-25 杉田映理	D-25 加原奈穂子	
15:55-16:15	A-25 重田真義	B-25 鈴木紀	C-26 山中広記	D-26 縄田浩志	
16:20-16:40	A-26 小泉都	B-26 関根久雄	C-27 菅野美佐子	D-27 分藤大翼	
16:45-17:05	A-27 服部志帆	B-27 橋本和也	C-28 松尾瑞穂	D-28 真崎恵子	
17:10-17:30	A-28 加藤裕美	B-28 田川泉	C-29 岡田菜穂子	D-29 吉田ゆか子	
17:35-17:55	A-29 佐藤靖明	B-29 藤田真理子	C-30 金谷美和	D-30 伏木香織	
	A-30 百瀬邦泰	B-30 波平恵美子			

第1日目 6月3日(土)

		E会場 (1212号室) 72名	F会場 (1213号室) 72名	G会場 (1214号室) 72名	H会場 (1322号室) 76名
8:30		受付開始			
9:00-9:20		F-1 小林孝広	G-1 金良淑	H-1 田所聖志	
9:25-9:45		F-2 藤井美穂	G-2 網野房子	H-2 吉田匡興	
9:50-10:10	E-3 根本達	F-3 細田尚美	G-3 仲川裕里	H-3 馬場淳	
10:15-10:35	E-4 舟橋健太	F-4 上田達	G-4 徐玉子	H-4 深田淳太郎	
10:40-11:00	E-5 桑原知子	F-5 辰巳頼子	G-5 宮下良子	H-5 江戸淳子	
11:05-11:25	E-6 外川昌彦	F-6 松本誠一	G-6 太田心平	H-6 渡辺文	
11:30-11:50	E-7 金基淑	F-7 市川哲	G-7 菊地暁	H-7 森仁志	
昼食					
13:00-13:20	E-8 郭安三	F-8 高城玲	G-8 星野晋	H-8 松下洋平	
13:25-13:45	E-9 菅豊	F-9 須永和博	G-9 成田明成・富田りか	H-9 深山直子	
13:50-14:10	E-10 長沼さやか	F-10 王柳蘭	G-10 日野智豪	H-10 山田香織	
14:15-14:35	E-11 陳夏晗	F-11 吉田香世子	G-11 小杉真智子	H-11 森明子	
14:40-15:00	E-12 李桓	F-12 佐藤まり子	G-12 池田瑞恵	H-12 出口雅敏	
15:05-15:25	E-13 徐素娟	F-13 飯國有佳子	G-13 淵上恭子	H-13 木村葉子	
15:30-15:50	E-14 李雯文	F-14 竹野富之	G-14 伊賀みどり	H-14 岡本由良	
15:55-16:15	E-15 奈倉京子	F-15 本多守	G-15 保岡啓子	H-15 神原ゆうこ	
16:20-16:40	E-16 角南聡一郎	F-16 但見美穂	G-16 山崎吾郎	H-16 嶋内博愛	
16:45-17:05	E-17 田川泉	F-17 藤田直子		H-17 白井裕之	

第2日目 6月4日(日)

		受付開始			
8:30		受付開始			
9:00-9:20	[分科会]	F-18 クネヒトペトロ	G-18 山本芳美	H-18 中谷文美	
9:25-9:45	E-18 椎野若菜	F-19 児玉香菜子	G-19 佐藤純子	H-19 青木武信	
9:50-10:10	E-19 小田亮	F-20 風戸真理	G-20 比嘉理麻	H-20 塩谷もも	
10:15-10:35	E-20 小馬徹	F-21 田畑久夫・金丸良子	G-21 越智郁乃	H-21 三浦哲也	
10:40-11:00	E-21 秦兆雄	F-22 六鹿桂子	G-22 陳泌秀	H-22 中島成久	
11:05-11:25	E-22 宮原暁	F-23 別所裕介	G-23 スチュアートヘンリ	H-23 福武慎太郎	
11:30-11:50	E-23 岡田浩樹	F-24 山本達也	G-24 山崎幸治	H-24 津田浩司	
	E-24 上杉妙子				
昼食					
15:30-15:50	E-25 細谷広美	F-25 王維	G-25 石川俊介	H-25 盛弘仁	
15:55-16:15	E-26 山本昭代	F-26 久保田滋子	G-26 小笠原尚宏	H-26 小池郁子	
16:20-16:40	E-27 茅根美保	F-27 工藤正子	G-27 堂下恵	H-27 渥美一弥	
16:45-17:05	E-28 藤原みどり	F-28 武川誓	G-28 柳宗伸	H-28 齋藤和枝	
17:10-17:30	E-29 荒井芳廣	F-29 永田貴聖	G-29 山口睦	H-29 岸上伸啓	
17:35-17:55		F-30 對馬秀子	G-30 田中雅一	H-30 高泉拓	

研究発表一覧

第1日目 6月3日(土) A会場 1313号室

8:30		登録		
9:00	[分科会] 「わかること」としての呪術			
11:50	[代表者] 川田牧人			
A-1	「わかること」としての呪術 —東南アジア・オセアニア地域における呪術的諸実践と概念枠組に関する文化人類学的研究—	川田 牧人		中京大学社会学部
A-2	ヴァヌアツ・トンゴア島民 SDA 信徒における邪術の受容 —「科学」と邪術の相互関係をめぐって—	白川 千尋		国立民族学博物館
A-3	精神科医にとっての呪い —バリ社会における精神医療の浸透とその影響—	大橋 亜由美		放送大学
A-4	「伝統」と「近代」を架橋する呪術的知識 —タイ東北部薬草師の治療実践をめぐって—	津村 文彦		福井県立大学
A-5	境界線上の反理解 —北タイ農村における呪術と「タイ式医療」—	飯田 淳子		川崎医療福祉大学 医療福祉学部
A-6	「信じる」ことと「恐れる」こと —呪術的リアリティ／イデオロギーについてのあるエピソード—	東 賢太郎		宮崎公立大学
A-7	方法としての因果関係 —ニューギニア高地、オクサブミンにおける白人の呪力を事例に—	行木 敬		京都文教大学
11:50 – 13:00		昼食		
13:00	[分科会] カレンダー文化の研究			
14:35	[代表者] 中牧弘允 (国立民族学博物館)			
A-8	自然暦とカレンダー —雪形カレンダーを中心に—	大越 公平		関東学院大学
A-9	移住者の歴史とカレンダー文化 —在日コリアンのニューカマーとオールドカマー—	李 仁子		東北大学大学院
A-10	サンフランシスコにおけるエスニック・カレンダー —カレンダーを切り口とした都市移民研究に向けて—	小谷 幸子		総合研究大学院大学 文化科学研究科
A-11	マルチカレンダー文化の比較 —日本とブラジル—	中牧 弘允		国立民族学博物館
14:40	[分科会] 日常性概念の再考			
16:40	[代表者] 浮ヶ谷幸代			
A-12	べてるが空から降ってきた —北海道浦河町住民の事例から—	浮ヶ谷 幸代		千葉大学他非常勤講師
A-13	署名運動と日常生活 —ある観察病棟建設計画をめぐって—	磯田 和秀		成城大学民俗学研究所
A-14	<場>の技法 —フランス・パリのカフェに集まるチュニジア人たちの事例から—	植村 清加		成城大学民俗学研究所
A-15	「うたう人びと」のうたわない日常 —南アフリカ・グリクワの人びとの多義的な日常	海野 るみ		
A-16	日常性という視点とヴォランティアリズム批判	小田 亮		成城大学

第1日目 6月3日(土) B会場 1225号室

8:30		登録			
9:00 9:20	B-1	ユートピア小説と民族誌	田沼 幸子	大阪大学 21世紀 COE 「インターフェイスの 人文学」特任研究員	
9:25 9:45	B-2	グローバル化時代のろう者アイデンティティ ― 危機手話言語 研究からピジン・クレオール手話研究へ―	亀井 伸孝	関西学院大学	
9:50 10:10	B-3	ラポールの系譜学	青木 恵理子	龍谷大学	
10:15 11:50		[分科会] 科学技術時代の人類学 [代表者] 福島真人 (東京大学)			
	B-4	大地の声を聴け ―トルコにおける地震と社会―	木村 周平	東京大学大学院	
	B-5	現代アメリカ社会の社会問題と科学的知識としての「肥満」	碓 陽子	東京大学大学院	
	B-6	魚・実践・科学的知識 ―資源管理体制下のニューファンドラ ンドにおける漁業と科学―	寺戸 宏嗣	東京大学大学院	
	B-7	薬剤的選択 ―慢性病の管理にみるテクノロジーと人間の 「ハイブリッド」について―	モハーチ ゲルゲイ	東京大学大学院	
11:50 – 13:00		昼食			
13:00 15:00		[分科会] 文化複合ダイナミズムから東南アジア生態史を見る [代表者] 久保正敏			
	B-8	文化人類学研究成果としての文化資源 ―博物館資料の活用を 目指して―	久保 正敏	国立民族学博物館 文化資源研究センター	
	B-9	残されたコレクションとモノの履歴 ―東南アジア・熱帯モン スーン地域における物質文化収集調査と生態史プロジェクトで の活用―	田口 理恵	東海大学海洋学部 海洋文明学科	
	B-10	博物館資料の共有化を目指して ―南山大学人類学博物館所蔵 「上智大学西北タイ歴史・文化調査団」資料から―	木田 歩	南山大学・名古屋大学 大学院	
	B-11	ゆるやかな叛史 ―北ラオス山地社会の事例から―	清水 郁郎	大同工業大学建築学科	
	B-12	人と馬とのメディアとしての馬具 ―物質文化からみた生態史―	小島 摩文	鹿児島純心女子大学国際 人間学部	
15:05 17:05		[分科会] 未来性 [代表者] 春日 直樹			
	B-13	「予後」を生きる ―自閉症の治療教育をめぐる未来性―	猪瀬 浩平	東京大学大学院	
	B-14	危険からリスクへ ―インド洋大津波災害後のプーケット島に おける風評災害を事例に―	市野澤 潤平	東京大学大学院総合文化 研究科博士課程	
	B-15	プロジェクトとしてのモラル・エコノミー ―フランスにおけ る連帯経済の事例―	中川 理	大阪大学	
	B-16	中間集団の工学から光学へ	真島 一郎	東京外国語大学アジア・ アフリカ言語文化研究所	
	B-17	生社会における未来性 ―北タイのエイズ自助グループ―	田辺 繁治	大谷大学	

第1日目 6月3日(土) C会場 1311号室

8:30		登録		
9:00 9:20	C-1	中国ミャオ族の呪術的实践 —貴州省「ガノウ」人の事例報告	陶 治	慶應義塾大学大学院 社会学研究科
9:25 9:45	C-2	女性からみる中庭型住居の役割 —中国・新疆カシュガルの事例を中心に—	熊谷 瑞恵	京都大学人間・環境学 研究科 博士課程3年
9:50 10:10	C-3	中国シボ族の時間と空間	丸山 孝一	福岡女学院大学
10:15 10:35	C-4	現代中国に生きるマイノリティの生存戦略 —中国雲南省シーサンパンナのアカ族の集落を事例に—	陳 暢	京都大学人間・環境学 研究科
10:40 11:00	C-5	積徳行の人類学的研究 —西南中国トン族の橋づくりの事例から—	兼重 努	滋賀医科大学
11:05 11:25	C-6	納西(ナシ)古楽の復興と変遷	宗ティンティン	中部大学国際人間学研 究科
11:30 11:50	C-7	記述と口承 —中国陝西省回民起義をめぐる記憶—	田村 和彦	福岡大学
11:50 - 13:00		昼食		
13:00 13:20	C-8	未婚の母たちの祈りの会ができるまで —南アフリカ・グリクワの人びとの個人的な体験と<歴史>—	海野 るみ	
13:25 13:45	C-9	セネガルのスーフィー教団ライエンの草創期における異民族の参加 —フルベ族の場合—	盛 恵子	名古屋大学大学院文学研 究科
13:50 14:10	C-10	ガボン南部バボンゴ・ピグミーと農耕民マサンゴの儀礼の共有と民族間関係	松浦 直毅	京都大学大学院理学研 究科
14:15 14:35	C-11	チーフにすること、されること —現代イボ社会における称号授与のポリティクス—	松本 尚之	東北大学大学院特別研 究員
14:40 15:00	C-12	アフリカの「養育」慣行に養育的側面を見る —北部ナイジェリア・ハウサ社会のリコ慣行を事例に—	梅津 綾子	名古屋大学大学院文学 研究科比較人文学講座
15:05 15:25	C-13	ケニア寄宿制プライマリ聾学校の生徒の物語りの手法に関する一考察 —即興寸劇的コミュニケーションで秩序化される経験—	古川 優貴	一橋大学
15:30 15:50	C-14	身分契約における形式的な取引モデル —今日の法人類学的接近—	石田 慎一郎	国立民族学博物館・日本 学術振興会特別研究員
15:55 16:15	C-15	ガーナにおける薬剤の流通と薬剤政策 —無認可の薬剤販売者を取締ること—	浜田 明範	一橋大学大学院社会学 研究科
16:20 16:40	C-16	畜群の動態を通して見た市場経済化 —ケニア中北部・サンブルの世帯経済の事例—	湖中 真哉	静岡県立大学 国際関 係学部
16:45 17:05	C-17	フィリピン伝統武術アーニス／カリの現代性に関する研究 —伝統文化の脱地域化と再構築の視点から—	大久保 豊	広島大学大学院総合科 学研究科

第1日目 6月3日(土) D会場 1312号室

8:30		登録				
9:00 9:20	D-1	身体感覚・感情の「手がかり」 — ボールルームダンス指導場面 を事例として—	板垣 明美	横浜市立大学		
9:25 9:45	D-2	現代刀作家としての刀匠 — 岐阜県関市の日本刀製作者を事例 に—	青木 啓将	名古屋大学大学院		
9:50 10:10	D-3	伊豆半島の海女や漁師にとっての「引退」とは — 高齢者の生 きがいと経験知の再活用をめぐる—	齋藤 典子	名古屋大学大学院文学 研究科		
10:15 10:35	D-4	組織研究における文化の考察 — 文化人類学的アプローチと日 本の実証的労働研究との接点—	鷺見 淳	労働政策研究・研修機 構		
10:40 11:00	D-5	現代日本ビジネス界に見る通過儀礼 — J社新入社員ビジネス マナー研修の事例—	八巻 恵子	総合研究大学院大学		
11:05 11:25	D-6	部門間コンフリクトのカンパニー・グラフィー — 経営人類学 の視点から—	中畑 充弘	明治大学／国立民族学 博物館		
11:30 11:50	D-7	メキシコ独立記念日の文化人類学的研究にむけて — 文化的自 画像の展開—	落合 一泰	一橋大学		
11:50 — 13:00		昼食				
13:00 13:20	D-8	アルジェリアにおける小規模融資プログラムの実態とその問題 点 — モロッコ・チュニアの事例との比較考察—	鷹木 恵子	桜美林大学国際学部		
13:25 13:45	D-9	子宮をめぐる世界 — モロッコ農村部女性の語りの実践より—	井家 晴子	東京大学大学院文化人 類学研究室博士課程		
13:50 14:10	D-10	現代トルコにおけるアレヴィー — 宗教的舞踊セマーから—	米山 知子	総合研究大学院大学		
14:15 14:35	D-11	上エジプト地方におけるエスニック・スポーツについて	瀬戸 邦弘	早稲田大学スポーツ文 化研究所		
14:40 15:00	D-12	トルコのチェルケズ人社会における奴隷子孫の黙化 — 『敬意 と愛』を手掛かりにした—考察—	宮澤 栄司	上智大学アジア文化研 究所客員研究員		
15:05 15:25	D-13	オマーンの「近代化」過程における国民統合 — 国籍法の分 析にみる「帰還移民」とアラビア語—	大川 真由子	日本学術振興会		
15:30 15:50	D-14	現代エジプトにおけるタリーカ（スーフィー教団）の展開	新井 一寛	京都大学大学院アジ ア・アフリカ地域研究 研究科博士課程		
15:55 16:15	D-15	音楽を否定するイスラーム — 伝統的解釈と近代的理由—	青柳 孝洋	岐阜大学		
16:20 16:40	D-16	イスラームの聖典と祈りをめぐる人類学的検討 — エジプトお よびインドネシアの事例を中心に—	小杉 麻李亜	立命館大学大学院先端 総合学術研究科一貫制 博士課程		
16:45 17:05	D-17	ウズベキスタンのピール崇敬 — 「イスラーム聖者信仰の近代 化」に寄せて—	菊田 悠	北海道大学スラブ研究 センター非常勤研究員		

第1日目 6月3日(土) E会場 1212号室

8:30		登録		
9:50 10:10	E-3	「嘘つきおじさん」の葬式 —インドのナーグプール市における 仏教徒たちの不可触民解放運動—	根本 達	筑波大学
10:15 10:35	E-4	ヒンドゥーイズムに抗して／とともに生きて —北インドにお ける仏教改宗運動と「改宗仏教徒」の生活実践—	舟橋 健太	京都大学大学院アジ ア・アフリカ地域研究 研究科
10:40 11:00	E-5	南インド・タミル映画における神々の歴史	桑原 知子	九州大学大学院人間環 境学研究科
11:05 11:25	E-6	チャイタニヤとイスラーム —反ポスト・コロニアル批判とし てのコミュニズム	外川 昌彦	広島大学大学院国際協 力研究科
11:30 11:50	E-7	サドゥ(Sadhu)から「聖人」へ —インド・ベンガル地方の カトリシズムにおける変容—	金 基淑	京都文教大学
11:50 — 13:00		昼食		
13:00 13:20	E-8	動植虫魚称による Austronesia〔南〕北航の証跡並び「聚(チュ)・ 九(カウ)・際(キワ)・多(サワ)」迄が〔南〕数詞の変訛であつ た事由	郭 安三	元東京富士大
13:25 13:45	E-9	中国における民間美術の創造運動 —浙江省象山の竹根彫を題 材に—	菅 豊	東京大学 東洋文化研 究所
13:50 14:10	E-10	「咸水歌」の変遷と「水郷文化」の創出 —中国広東省中山市の 事例—	長沼 さやか	総合研究大学院大学 文化科学研究科
14:15 14:35	E-11	「祖先肖像画」を巡る紛争から見る宗族と宗親会の関係 —福建 省南部の林姓宗親会の事例研究に基づいて—	陳 夏哈	総合研究大学院大学 文化科学研究科 比較 文化学専攻
14:40 15:00	E-12	季節集団移住と島陸連繋の広域生活 —中国大連「マーイー島」 における生活改善の事例—	李 桓	長崎総合科学大学
15:05 15:25	E-13	民間文化への国家参与における連続性と非連続性 —文革 中とその後における蓮花山花児会に関する考察	徐 素娟	大阪大学大学院 博士 後期課程
15:30 15:50	E-14	中国陝西省のカトリック村における教会のポリティックス	李 雯文	京都大学人間・環境学 研究科博士課程
15:55 16:15	E-15	中国広東省における特殊な移民コミュニティの中のディアス ボラ —台山海宴華僑農場を例に—	奈倉 京子	中山大學人類学部博士 課程
16:20 16:40	E-16	墓標の破壊と保管 —日本と中国・台湾との比較から—	角南 聡一郎	(財)元興寺文化財研究 所
16:45 17:05	E-17	戦争展示のポリティックス —南京大虐殺をめぐる公的記憶—	田川 泉	南京大学非常勤講師

第1日目 6月3日(土) F会場 1213号室

8:30		登録				
9:00 9:20	F-1	汽水漁場利用者間の交渉と漁場の利用秩序 —フィリピン・パナイ島ハカップ川のタバ漁を中心にして—	小林 孝広	早稲田大学人間科学学 術院		
9:25 9:45	F-2	ココヤシ栽培の小農社会における「土地持ち」に関する一考察 —フィリピン・ルソン島ラグナ州「高地」の事例—	藤井 美穂	京都大学大学院アジ ア・アフリカ地域研究 研究科		
9:50 10:10	F-3	「分け与えること」をめぐる移民と母村の関係 —フィリピン・サマル島事例から—	細田 尚美	京都大学大学院アジ ア・アフリカ地域研究 研究科		
10:15 10:35	F-4	隣人を作り上げる —マレーシア都市部におけるルクン・トゥ タンガの事例より—	上田 達	大阪大学大学院人間科 学研究科博士後期課程		
10:40 11:00	F-5	正しいイスラームと中東的なもの —フィリピン・マラナオ 社会における再イスラーム化の過程	辰巳 頼子	上智大学		
11:05 11:25	F-6	東南アジアの韓人社会 —インドネシア・シンガポール・タイ・ ミャンマー・ベトナムの事例管見—	松本 誠一	東洋大学		
11:30 11:50	F-7	「現地化」の諸相 —ファミリー・ヒストリーを通して見たマレー シア、サラワクの華人社会の地域性—	市川 哲	国立民族学博物館・研 究機関研究員		
11:50 – 13:00		昼食				
13:00 13:20	F-8	村の中の国家 —タイ中部農村における研修訓練の相互行為—	高城 玲	国立民族学博物館		
13:25 13:45	F-9	カレン・コンセンサスをを超えて —NGO運動における「カレン 文化」をめぐる言説と実践—	須永 和博	立教大学大学院観光学 研究科		
13:50 14:10	F-10	タイ北部におけるイスラーム環境の構築過程 —雲南系ムスリ ム移民の定着とネットワークの事例から—	王 柳蘭	京都大学大学院アジ ア・アフリカ地域研究 研究科		
14:15 14:35	F-11	北ラオス・ルー族農村における“ブン・パウェート”	吉田 香世子	京都大学大学院アジ ア・アフリカ地域研究 研究科		
14:40 15:00	F-12	カオダイ教信者の語り —彼らはなぜ信仰を維持するのか—	佐藤 まり子	総合研究大学院大学 文化科学研究科		
15:05 15:25	F-13	解釈される儀礼 —ビルマ・仏教儀礼におけるジェンダーの 非対称性と可変性—	飯國 有佳子	総合研究大学院大学		
15:30 15:50	F-14	マレー人の「悪魔」観 —ブラックメタル現象に焦点をあてて—	竹野 富之	東海学園大学人文学部 非常勤講師		
15:55 16:15	F-15	ベトナム・チル集団の葬礼の変容 —消えたものと残ったもの—	本多 守	東洋大学大学院社会学 研究科社会学専攻博士 課程		
16:20 16:40	F-16	「快適なくらし」の周辺で —北部タイ農村から日本に渡った女 性の成功—	但見 美穂	筑波大学		
16:45 17:05	F-17	報恩 (kaan tooptheen bunkhun) をめぐる母子の関係 —移動 労働する東北タイ農村出身女性の事例から—	藤田 直子	大谷大学		

第1日目 6月3日(土) G会場 1214号室

8:30		登録			
9:00 9:20	G-1	濟州島シンバンによる出稼ぎ ワークー	一濟州島と日本を結ぶネット	金 良淑	東京大学大学院
9:25 9:45	G-2	豚と貨幣	一韓国濟州島のケガレをめぐって一	網野 房子	専修大学
9:50 10:10	G-3	韓国における族譜のデジタル化とその影響		仲川 裕里	専修大学
10:15 10:35	G-4	国家の思惑と生活苦を乗り越えて	一韓国京畿道における米兵 相手の韓国人売春女性の語りを中心に一	徐 玉子	京都大学大学院人間・ 環境学研究科
10:40 11:00	G-5	「越境」の実践	一在日コリアンのシャーマニズムの事例から一	宮下 良子	跡見学園女子大学短期 大学部
11:05 11:25	G-6	リョーハン	一近代日本における他者表象の一事例報告一	太田 心平	大阪大学大学院人間科学 学研究科
11:30 11:50	G-7	赤松智城論ノート	一徳応寺所蔵資料を中心に一	菊地 暁	京都大学人文科学研究所
11:50 - 13:00		昼食			
13:00 13:20	G-8	「患者中心の医療」から「生活者中心のヘルス・ケア」へ	一医療人類学からの提案一	星野 晋	山口大学医学系研究科
13:25 13:45	G-9	H I V / A I D S から見た開発と医療		成田 弘成 富田 りか	桜花学園大学 東邦大学
13:50 14:10	G-10	「文化としての病い」再考	一北部タイ、チェンマイ県に暮らす HIV/AIDS 感染者を事例として一	日野 智豪	上智大学 / 日本学術振 興会特別研究員
14:15 14:35	G-11	「ハンセン病を生きる」という実践にみる病いの受容		小杉 真智子	北海道大学
14:40 15:00	G-12	性の歴史的転換と性を移行する経験	一現代日本の「性同一性 障害」医療化において一	池田 瑞恵	日本学術振興会 / 京都 大学
15:05 15:25	G-13	韓国の「不妊治療」とヒトクローン ES 細胞研究	一研究用 卵子の提供問題の倫理と文化をめぐって一	淵上 恭子	
15:30 15:50	G-14	開業助産婦の語りにもみる出産文化の変容	一「自然」と「医療」 の間で一	伊賀 みどり	日本文化人類学会員
15:55 16:15	G-15	脳死・臓器移植とその当事者たちの生命観	一移植医療者・レ シピエント・ドナー家族の語りから一	保岡 啓子	北海道大学大学院
16:20 16:40	G-16	ネットワークと想像力	一臓器移植医療の事例から一	山崎 吾郎	大阪大学 / 日本学術振 興会

第1日目 6月3日(土) H会場 1322号室

8:30		登録			
9:00	H-1	パプアニューギニア高地辺縁部における空間認識 —テワード	田所 聖志		
9:20		におけるアギ (aki) 概念を中心として—			
9:25	H-2	「呪術」から見る生活空間のあり方 —パプアニューギニア・ア	吉田 匡興	一橋大学大学院社会学	
9:45		ンガティーヤ社会の事例から—		研究科	
9:50	H-3	パプアニューギニアにおける法の使い方 —扶養費を求める女	馬場 淳	東京都立大学大学院	
10:10		性の実践から—			
10:15	H-4	パプアニューギニア、トーライ社会における貝貨の補完貨幣化	深田 淳太郎	一橋大学大学院社会学	
10:35		をめぐる現在の状況		研究科 博士課程	
10:40	H-5	—カナク・ナショナリズムの分析— ニューカレドニア独立運	江戸 淳子	杏林大学	
11:00		動にみるネーションの探求において			
11:05	H-6	「芸術家」のうまれるとき：フィジー、オセアニア・センターの	渡辺 文	京都大学大学院人間・	
11:25		現代芸術活動を事例に		環境学研究科	
11:30	H-7	社会的アイデンティティの交差点としてのホノルル・ナイトク	森 仁志	横浜国立大学非常勤講	
11:50		ラブ		師	
11:50 — 13:00		昼食			
13:00	H-8	オーストラリア・アボリジニの「アルコール問題」をめぐる言	松下 洋平	一橋大学大学院	
13:20		説的状況の概観 —差異と介入の結節点としての「飲んだくれ			
		のアボリジニ像」と人類学的研究との相克を中心として—			
13:25	H-9	「都市の先住性」表現としての祭祀・集会場マラエーニュージー	深山 直子	首都大学東京大学院	
13:45		ランド・オークランドのマオリ社会における実態調査に基づい		社会科学研究科 社会	
		て—		人類学専攻 博士課程	
13:50	H-10	ドイツにおける市民団体の活動にみる社交の様態	山田 香織	総合研究大学院大学	
14:10					
14:15	H-11	オルタナティブなコミュニティとしての「場所」への関心 —	森 明子	国立民族学博物館	
14:35		ベルリン・クロイツベルグの事例から—			
14:40	H-12	フランス・ラングドック地方エロー県におけるトーテム動物の	出口 雅敏	早稲田大学人間科学学術	
15:00		宇宙 —種の多様性の拡大と究極的非連続性—		院人間総合研究センター	
15:05	H-13	ロンドンのノッティングヒル・カーニバル —都市の祝祭集	木村 葉子	名古屋大学文学研究科	
15:25		団「マスバンド」をめぐって—		比較人文学講座 博士	
				後期課程	
15:30	H-14	ラトビア農村部における交換関係と悪態	岡本 由良	大阪大学大学院人間科	
15:50				学研究科	
15:55	H-15	拡大 EU 域内における移民の循環 —その階層化と個人の戦略	神原 ゆうこ	東京大学大学院総合文	
16:15		—		化研究科 博士課程	
16:20	H-16	オーストリアのエスニックマイノリティ —ケルンテンのスロ	嶋内 博愛	東京大学大学院人文社	
16:40		ヴェニア系住民と母語教育プログラム		会系研究科 研究拠点	
				形成特任研究員	
16:45	H-17	一番遅れてきた「ナショナリズム」？ —「エスペラント自治	白井 裕之	財団法人日本エスペラ	
17:05		共同体」とは何か？—		ント学会	

第2日目 6月4日(日) A会場 1313号室

8:30

登録

- 9:00 [分科会] 音的近代／民族誌的近代 一音の記録史から声の文字化を再考する
11:50 [代表者] 太田好信
- A-18 「記される音」と「記されない音」 一音の民族誌と録音をめぐって 山田 陽一 京都市立芸術大学
- A-19 録音技術と民族誌記述 太田 好信 九州大学大学院比較社会文化研究院
- A-20 「聞き書き」の認識論 ―「郷土史家」と歴史家のあいだ― 小尾 章子 九州大学大学院比較社会文化学府
- A-21 帰還する音の真正性 一音的近代と民族誌的近代における「ホーム」について考える 慶田 勝彦 熊本大学文学部総合人間学科
- A-22 アーカイヴ化されるカリブ、再演されるカリブ 鈴木 慎一郎 信州大学
- A-23 記憶＝記録の悪魔 ―ドキュメントにおける記憶（声）とジャズレコードの記録（刻印）について― 池田 光穂 大阪大学
- A-24 ヴァルヴ・フィクション ―オーディオフィールの人類学― 松岡 秀明 淑徳大学

11:50 – 12:50

昼食

- 12:50 総会・講演会
15:20
- 15:30 [分科会] 民俗知識の諸相：アジア・アフリカ地域における民族生物学研究の展開
17:55 [代表者] 重田真義
- A-25 作物品種に関わる民俗知識の多様性とその成立機序 重田 真義 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
- A-26 狩猟採集民プランの植物知識にみられる近代化の影響 一性差、世代差、個人差の分析から― 小泉 都 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
- A-27 狩猟採集民バカの植物知識の多様性 一性差、世代差、個人差の分析から― 服部 志帆 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
- A-28 サラワク・シハンにおける野生動物への知識と利用の変化 加藤 裕美 京都大学大学院人間・環境学研究科
- A-29 バナナの品種多様性を支える民俗知識とは ―ウガンダ中部ブガンダ地域の事例より― 佐藤 靖明 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
- A-30 多様な生物の利用持続性における共同体資源管理の限界と豊富なインベントリーの意義 百瀬 邦泰 愛媛大学農学部

第2日目 6月4日(日) B会場 1225号室

8:30 登録

9:00 9:20	B-18	「困難な私たち」への遡行 —接触領域 <small>コンタクト・ゾーン</small> における記憶と歴史の民族誌記述—	中村 平	日本学術振興会、京都大学人文科学研究所
9:25 9:45	B-19	台湾総督佐久間左馬太に関する台湾先住民の記憶 —タロコ族からみた「太魯閣討伐」—	原 英子	岩手県立大学
9:50 10:10	B-20	台湾における植民地主義 —台北市の古蹟指定をめぐる—	上水流 久彦	県立広島大学
10:15 11:50		[分科会] 不法占拠地・スラム社会における自生的リーダーシップとジェンダー [代表者] 江口 信清		
	B-21	カリブ海地域の不法占拠地・スラム社会における自生的リーダーシップとジェンダー —ドミニカ国、トリニダード・トバゴ、ガイアナの事例より—	江口 信清	立命館大学
	B-22	マニラの不法占拠地・スラム社会における貧困削減に関する女性の役割	四本 幸夫	立命館大学
	B-23	インド・西ベンガル州の地方都市スラムにおける生活改革運動と自生的リーダー	村瀬 智	大手前大学
	B-24	ボカラ市のマオイスト一掃とスクンバシ集落自生的リーダーに見る「ジェンダー交替」	山本 勇次	大阪国際大学法政経学部

11:50 - 12:50 昼食

12:50 15:20		総会・講演会		
15:30 17:55		[分科会] 実践人類学の必然性と可能性 [代表者] 鈴木 紀		
	B-25	実践人類学の必然性と可能性 —知識活用方法から人類学を問い直す—	鈴木 紀	千葉大学
	B-26	競合するフィールド、協働するフィールド — NGO 活動に対する人類学的実践の可能性—	関根 久雄	筑波大学
	B-27	地域との文化人類学的協働を探る —課題発見型・社会関係構築型の取り組みについて—	橋本 和也	京都文教大学
	B-28	博物館のミッションと人類学の交差点 —博物館における多様性を育む人類学実践—	田川 泉	南京大学非常勤講師
	B-29	文化の翻訳者・仲介者としての人類学者の役割 —教育・福祉分野の実践から—	藤田 真理子	広島大学
	B-30	医療人類学が医療現場からの期待に応えるために —理論と方法論を提示することの再検討—	波平 恵美子	日本文化人類学会

第2日目 6月4日(日) C会場 1311号室

8:30

登録

- | | | | | |
|----------------|------|--|--------|---------------------------------------|
| 9:00
9:20 | C-18 | 観光における伝統文化の真正性 —ヴァヌアツ共和国・アネイ
チュム島の事例より— | 福井 栄二郎 | 日本学術振興会／国立
民族学博物館 |
| 9:25
9:45 | C-19 | ヌーメアにおける民族衣装の変容と「定型化」 —女性被服の制
作現場を中心に— | 中村 純子 | 横浜商科大学 |
| 9:50
10:10 | C-20 | 起源神話と土地所有 —フィジー、ラ地方におけるソロモン諸
島移民の集落 M を事例として— | 丹羽 典生 | 日本学術振興会特別研
究員 |
| 10:15
10:35 | C-21 | Enterprise Community Project と称される試みへ —ハワイ州
モロカイ島サブシステムの今後— | 藤澤 友子 | 日本文化人類学会 |
| 10:40
11:00 | C-22 | ミクロネシア・パラオ共和国における土地訴訟の分析 —在地
の血縁集団とイエ制度との関連から— | 飯高 伸五 | 東京都立大学大学院 |
| 11:05
11:25 | C-23 | 「神への贈与」再考 —トンガ王国における教会への献金と献身
を手がかりとして— | 比嘉 夏子 | 京都大学大学院人間・
環境学研究科／日本学
術振興会特別研究員 |
| 11:30
11:50 | C-24 | 教会に傾斜する庶民 —トンガ王国エウア島の事例から— | 森本 利恵 | 総合研究大学院大学 |

11:50 – 12:50

昼食

- | | | | | |
|----------------|------|--|--------|--------------------------------|
| 12:50
15:20 | | 総会・講演会 | | |
| 15:30
15:50 | C-25 | 水・衛生セクターへの文化人類学的知見の活用 —可能性と提
言— | 杉田 映理 | 国際協力機構 |
| 15:55
16:15 | C-26 | 開発ミドルマンと社会的インターフェイス —バングラデシュ
人民共和国の開発 NGO による先住民への支援活動を事例とし
て— | 山中 広記 | 筑波大学 |
| 16:20
16:40 | C-27 | 揺れる自己 —北インド農村で暮らす女性の開発実践をめぐっ
て— | 菅野 美佐子 | 総合研究大学院大学 |
| 16:45
17:05 | C-28 | 不妊は病気か? —インドにおける不妊治療をめぐる制度的医
療のなかの多様性— | 松尾 瑞穂 | 総合研究大学院大学、
日本学術振興会特別研
究員 |
| 17:10
17:30 | C-29 | 布の生産と価値の生産 —バングラデシュのジャムダニを中心
に— | 岡田 菜穂子 | 広島大学大学院社会科
学研究科 |
| 17:35
17:55 | C-30 | 災害復興、開発をめぐる交渉の場としての染織品 —インド西
部地震被災地の事例より— | 金谷 美和 | 京都大学人文科学研究
所 |

第2日目 6月4日(日) D会場 1312号室

8:30

登録

- | | | | | |
|----------------|------|--|--------|--------------------|
| 9:00
9:20 | D-18 | 割礼からみる子どもの社会化とその変容 —バングラデシュ農村社会を事例にして— | 南出 和余 | 総合研究大学院大学文化科学研究科 |
| 9:25
9:45 | D-19 | 「サンスクリット化」再考 —南インド・ケーララ州のテイヤム信仰から— | 古賀 万由里 | 横浜国立大学 |
| 9:50
10:10 | D-20 | インド社会の邪視の諸相 —ウツタル・プラデーシュ州東部のある村落での事例より— | 小松原 秀信 | 立教大学大学院文学研究科地理学専攻 |
| 10:15
10:35 | D-21 | 呪術に抗する社会 —南インドの商業移動民ヴァギリの事例より— | 岩谷 彩子 | 日本学術振興会・京都大学 |
| 10:40
11:00 | D-22 | 編集された儀礼 —インド・グジャラート州におけるヒジュラ社会の事例より— | 山崎 浩平 | 立命館大学文学研究科 |
| 11:05
11:25 | D-23 | 「男でもあり、女でもあり」 —インド、グジャラート州におけるヒジュラの生活世界— | 國弘 暁子 | お茶の水女子大学大学院人間文化研究科 |
| 11:30
11:50 | D-24 | 略奪婚の「抹消」 —ヒマラヤ山地民の婚姻をめぐる言説実践における「近代」性と「他者」性— | 佐藤 齊華 | 帝京大学 |

11:50 — 12:50

昼食

12:50 総会・講演会

15:20

- | | | | | |
|----------------|------|--|--------|----------------------------|
| 15:30
15:50 | D-25 | 昔話の視覚表現とその変容 —「桃太郎」の事例から— | 加原 奈穂子 | 早稲田大学非常勤講師 |
| 15:55
16:15 | D-26 | 異文化を憑依させる —ビデオを用いた教室における異文化ショックの疑似体験の試み— | 縄田 浩志 | 鳥取大学乾燥地研究センター |
| 16:20
16:40 | D-27 | 映像人類学の可能性 —現状と課題— | 分藤 大翼 | 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 研修員 |
| 16:45
17:05 | D-28 | 新しいガムラン合奏形態が誕生する背景 —19世紀から20世紀初頭までのバリ島ブレレン地域史の考察より— | 真崎 恵子 | 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 |
| 17:10
17:30 | D-29 | 演奏と性別役割 —インドネシア・バリの女性ガムラン奏者たち— | 吉田 ゆか子 | 筑波大学 |
| 17:35
17:55 | D-30 | バリ島デンパサール市における地域文化の創造、伝承、変容 —地域における女性ガムラン・グループが示すもの— | 伏木 香織 | 東京藝術大学、東邦音楽大学(非常勤講師) |

第2日目 6月4日(日) E会場 1212号室

8:30

登録

9:00
11:50

[分科会] 配偶者亡きあとの寡^{やもめ}の処遇
[代表者] 椎野若菜

- | | | | | |
|------|--------------------------------------|--|-------|------------------------|
| E-18 | 配偶者亡きあとの寡 ^{やもめ} の処遇 | 一趣旨説明一 | 椎野 若菜 | 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 |
| E-19 | 西ケニア・クリア社会のレヴィレート | 一寡婦たちの戦術一 | 小田 亮 | 成城大学 |
| E-20 | キプシギスの「家財産制」における寡婦の自由・放縦と民族紛争・人権「問題」 | | 小馬 徹 | 神奈川大学 |
| E-21 | 儒教規範と漢人寡婦 | | 秦 兆雄 | 神戸市外国語大学 |
| E-22 | 寡婦の力 | ードニヤ・モDESTA・シンソン・ガイサノとフィリピン・セブのチャイニーズ一 | 宮原 暁 | 大阪外国語大学 |
| E-23 | 寡婦の再婚と姓が異なる父子の苦痛 | 一民族文化とグローバルスタンダードの相克一 | 岡田 浩樹 | 神戸大学 |
| E-24 | 戦争未亡人と戦前・戦後の体制転換 | | 上杉 妙子 | 専修大学非常勤講師 |

11:50 - 12:50

昼食

12:50 総会・講演会
15:20

- | | | | | | |
|----------------|------|-----------------------|---|--------|-------------------|
| 15:30
15:50 | E-25 | 越境するアーティストたち | 一現代美術におけるグローバル化とローカリティー | 細谷 広美 | 神戸大学国際文化学部 |
| 15:55
16:15 | E-26 | 「マドレソルテラ(シングルマザー)」の出現 | 一メキシコ先住民農村の事例から一 | 山本 昭代 | 慶應義塾大学ほか非常勤講師 |
| 16:20
16:40 | E-27 | 先住民医師アワと先住民ブリブリとしての身体 | 一コスタリカ・ブリブリにおけるアワの位置づけの変容を巡って一 | 茅根 美保 | 山梨学院大学非常勤講師 |
| 16:45
17:05 | E-28 | キューバ的時間の遊び方 | 一時間の「区切り」、リズムの「区切り」：ナラティブの視点から一 | 藤原 みどり | 名古屋市立大学大学院人間文化研究科 |
| 17:10
17:30 | E-29 | 地域文化創造の意志をめぐって | 一ブラジル北東部の紋章学的運動と Farinha do mesmo saco の精神一 | 荒井 芳廣 | 大妻女子大学 |

第2日目 6月4日(日) F会場 1213号室

8:30

登録

9:00 9:20	F-18	Bariyaqiの羊による治療法について	クネヒト ペ ト口	南山大学
9:25 9:45	F-19	中国内モンゴル定着化における牧畜民の社会経済的動態 —中国内モンゴル自治区オールドス地域ウーシン旗の事例から—	児玉 香菜子	日本学術振興会
9:50 10:10	F-20	ポスト社会主義モンゴルにおける土地私有化政策と牧民の実践	風戸 真理	京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科
10:15 10:35	F-21	チベット族の木地製作 —雲南省香格里拉県を事例として—	田畑 久夫 金丸 良子	昭和女子大学 麗澤大学
10:40 11:00	F-22	チベット族の一妻多夫婚 —中国雲南省徳欽県の事例から—	六鹿 桂子	愛知大学大学院中国研究科博士後期課程
11:05 11:25	F-23	チベット仏教と山神崇拜 —中国辺境の多民族集落における宗教的实践と社会動態—	別所 裕介	広島大学大学院国際協力研究科
11:30 11:50	F-24	反響する現代的チベット音楽 —北インド・ダラムサラのアカマバンドを事例に—	山本 達也	京都大学大学院

11:50 — 12:50

昼食

12:50 15:20		総会・講演会		
15:30 15:50	F-25	移民ネットワーク、社会的資源の配置及び中国東北新移民 —サンフランシスコベイエリアの調査により—	王 維	香川大学
15:55 16:15	F-26	難民への「文化的援助」の方法とその受容 —スイスにおけるチベット人の受け入れをめぐって—	久保田 滋子	一橋大学大学院社会学研究科
16:20 16:40	F-27	「改宗ムスリム」としての自己の構築 —パキスタン人と結婚した日本人女性の事例から—	工藤 正子	青山学院女子短期大学・非常勤講師
16:45 17:05	F-28	在日ペルー人とカトリック教 —El Señor de los Milagros (奇跡の主)の活動を通じて—	武川 誓	東京女子大学大学院
17:10 17:30	F-29	1980年代以降の在日フィリピン人による社会関係の形成 —個別事例を通じて—	永田 貴聖	立命館大学大学院 先端総合学術研究科 博士課程
17:35 17:55	F-30	ミクロネシア(旧南洋群島)における移民の歴史人類学的研究 —八丈島の事例を中心として—	對馬 秀子	埼玉医科大学短期大学

第2日目 6月4日(日) G会場 1214号室

8:30 登録

9:00 9:20	G-18 「地の利は人の和に如かず」 — 沖縄県石垣市 A 集落にみる共生にむけた伝統作り、エイサーを例として —	山本 芳美	都留文科大学比較文化 学科講師
9:25 9:45	G-19 文化資源としての沖縄県離島地域「民俗仮面」の人類学的研究 — 宮古島市宇島尻「パーントゥ」を事例として —	佐藤 純子	名古屋大学大学院文学 研究科
9:50 10:10	G-20 料理が練られる場としての市場 ^{いちば} — <家庭の味>と<沖縄料理>	比嘉 理麻	筑波大学大学院
10:15 10:35	G-21 沖縄社会における墓の移動に関する一考察	越智 郁乃	広島大学大学院社会科 学研究科 社会人類学 専攻 博士課程後期
10:40 11:00	G-22 金と村：軍用地料と村落の社会組織 — 沖縄金武町の事例 —	陳 泌秀	韓国ソウル大学人類学 科博士課程
11:05 11:25	G-23 アイヌ民族の表象に関する考察 — 博物館展示を事例に —	スチュア ート ヘンリ [本多俊和]	放送大学
11:30 11:50	G-24 J.C. ブロムホフのアイヌ資料	山崎 幸治	名古屋大学大学院

11:50 — 12:50 昼食

12:50 15:20	総会・講演会		
15:30 15:50	G-25 祭における「暴力性」の研究 — 諏訪大社御柱祭を事例として —	石川 俊介	名古屋大学
15:55 16:15	G-26 現代における長老制の構造と変容 — 滋賀県野洲市・兵主大社所管社を事例として —	小笠原 尚宏	総合研究大学院大学・ 院
16:20 16:40	G-27 資源としての里山景観 — 日本の農村における環境観光実践から —	堂下 恵	慶應義塾大学
16:45 17:05	G-28 お伽運動と近代	柳 宗伸	東京外国語大学大学院
17:10 17:30	G-29 地域社会における兵役 — 贈与行為の分析から —	山口 睦	東北大学
17:35 17:55	G-30 天皇家のおくりもの — 外交贈答台帳の分析 —	田中 雅一	京都大学人文科学研 究所

第2日目 6月4日(日) H会場 1322号室

8:30

登録

- | | | | | |
|----------------|------|---|--------|------------------|
| 9:00
9:20 | H-18 | 伝統染織というファッション —インドネシアの事例から— | 中谷 文美 | 岡山大学大学院社会文化科学研究科 |
| 9:25
9:45 | H-19 | インフォーマル・セクター論再考 —インドネシアの事例から— | 青木 武信 | 放送大学非常勤講師 |
| 9:50
10:10 | H-20 | ジャワにおける儀礼変化と社会関係 —「再イスラーム化」と女性— | 塩谷 もも | 東京外国語大学大学院 |
| 10:15
10:35 | H-21 | ボルネオ島・ドゥスン族の村落における社会集団としての「家」 | 三浦 哲也 | 筑波大学人文社会科学部研究科 |
| 10:40
11:00 | H-22 | 西スマトラ州における共有地返還運動と「開発」の正当性 | 中島 成久 | 法政大学国際文化学部 |
| 11:05
11:25 | H-23 | 東ティモール騒乱における「略奪婚」と人権運動 | 福武 慎太郎 | 上智大学 |
| 11:30
11:50 | H-24 | 「華人国家英雄」の誕生? —現代インドネシアにおける「華人性」の主張をめぐる動態— | 津田 浩司 | 東京大学大学院総合文化研究科 |

11:50 — 12:50

昼食

12:50 総会・講演会
15:20

- | | | | | |
|----------------|------|--|-------|----------------------|
| 15:30
15:50 | H-25 | 移住と家族の絆 —セネガルの首都ダカールのレブーの一家族における名付け— | 盛 弘仁 | 名古屋大学大学院文学研究科比較人文学講座 |
| 15:55
16:15 | H-26 | ナイジェリア由来の宗教、オリシャ崇拝における託宣 —アフリカ系アメリカ人の宗教文化考察— | 小池 郁子 | 京都大学大学院/日本学術振興会 |
| 16:20
16:40 | H-27 | 「情報」としての「インディアン」—その3 —情報発信システムとしての「美術」— | 渥美 一弥 | 自治医科大学 |
| 16:45
17:05 | H-28 | 社会変容に動く北西海岸のカナダ先住民族の結婚事例 | 齋藤 和枝 | 関西外国語大学 |
| 17:10
17:30 | H-29 | カナダ・イヌイットの食物分配について —「分与」と「再分配」— | 岸上 伸啓 | 民博・総研大 |
| 17:35
17:55 | H-30 | アメリカにおける銃と暴力 —1992年日本人留学生射殺事件の事例を通して— | 高泉 拓 | |